

環境マネジメントシステム導入報告書

(宛 先) 京 都 府 知 事		2021 (令和3) 年 7 月 13 日
住所 (法人にあっては、主たる事務所の所在地) 〒624-0906 京都府舞鶴市宇倉谷660		氏名 (法人にあっては、名称及び代表者の氏名) 日之出化学工業株式会社 代表取締役社長 秋元 久雄
環 境 マ ネ ジ メ ン ト シ ス テ ム の 名 称	K E S ス テ ッ プ 2	
適 用 範 囲	日之出化学工業株式会社 本社・舞鶴工場	
導 入 年 月 日	2012 (平成24) 年 8 月 1 日	
認 証 番 号	K E S 2 - 0 6 2 2	
基 本 方 針	日之出化学工業株式会社本社・舞鶴工場は、磷酸質肥料の製造およびフッ化マグネシウムの製造・販売に係わる全ての活動、製品およびサービスの環境影響を改善するために、環境マネジメント活動を推進して地球環境との調和を目指します。	
環境に配慮した事業活動を自主的に進めていくための目標 (以下「目標」という。)	(1) エネルギー原単位の向上 (2) 総合排水中の有害物の低減 (3) 産業廃棄物の削減 (4) 品質クレームの低減 (5) 改善提案活動の活性化	
目標を達成するための取組の内容	(1) エネルギー原単位の向上 -①平炉原料配合の工夫による熔融性の改善 -②平炉オイルコークス燃焼操業の安定継続 (重油使用低減) -③加工部門における省エネ取り組み (2) 総合排水中の有害物の低減 -①フッ素イオンでの監視方法の確立 -②排ガス洗浄工程の管理強化 -③中和処理工程の管理強化 -④異常発生時の原因究明 (3) 産業廃棄物の削減 -①廃プラスチックの有価物化 -②油漏れ解消による廃油の削減 -③分別強化による有価物の回収 (4) 品質クレームの低減 -①根本的対策となる設備改善の計画 -②シートパレットの材質変更 -③保証成分の確保 (5) 改善提案の積極参加 コストダウン、工程改善、安全対策、工場美化、環境負荷低減	
目標を達成するための取組の進捗状況	(1) -①コストダウン処方に伴い原料水分が多くなり、計画配合での操業が困難であった。 (1) -②コロナ禍の重油価格下落時に燃料をオイルコークスからA重油に切り替えて約1か月間操業。 (1) -③コロナ禍で原料資材の代替を余儀なくされ、製造条件が安定しなかった (11月以降)。 (2) -①管理基準に基づき監視継続。 (2) -②排ガス洗浄ノズル閉塞等不具合発生の都度、迅速に対応した。 (2) -③管理基準に基づき監視継続。 (2) -④排水異常の実績無し。 (3) -①継続的に実施。 (3) -②機器油漏れ発生時に迅速に対応。 (3) -③継続的に実施。 (4) -①袋詰め計量器を更新。 (4) -②実施済み。更にシートパレット使用直前の表面掃除を徹底。 (4) -③仕込み原料成分の管理強化を継続的に実施。 (5) 社内全体で活動展開継続。	
目標を達成するための取組の成果及び当該成果に対する評価	(1) 目標2019年度比2%向上に対し、実績3.4%悪化で目標未達。原因として、コロナ禍で重油価格が一時的に下落し、平炉主燃料であるオイルコークスから重油に燃料を切り替えた為、エネルギー換算係数の違いから燃料構成差が生じた。原料水分増による乾燥粉砕動力増、コロナ禍で加工部門原料代替による成績乱調も原因。 (2) 排水異常は発生していないが、Fイオン濃度が少し高くなる時がある為、引き続き管理強化を要する。 (3) マジックコンテナ等大型包装資材の更新時期であり、廃棄物量が増加。 (4) O E M製品重量不足が1件、異物混入が1件、計2件のクレームが発生し、再発防止の管理強化。 (5) 目標14件以上/月に対し、年間平均19.6件/月で目標達成。ヒヤリハット抽出の活性化により、安全化改善も多く見られた。	
事業活動に係る法令の遵守の状況	・公害関係の環境測定結果を3か月ごとに舞鶴市へ報告。	
環境マネジメントシステムの評価及び見直しの内容	(1) エネルギー原単位の向上については、基準年度を2019年度から2020年度に変更し、基準年度比2%向上を目標に設定。 (2) 総合排水中の有害物の低減については、排水Fイオン濃度の目標ピーク値を引き続き5.2ppm以下とし、管理強化に努める。 (3) 産業廃棄物の削減については、2020年度実績量以下を目標とする。 (4) 品質クレームの低減については、目標を引き続き1件以下/年とし、クレーム撲滅を目指す。 (5) 改善提案の積極参加については、目標を引き続き14件以上/月として取り組む。	

注 認証番号の欄は、導入した環境マネジメントシステムについて第三者の認証を受けている場合のみ記入してください。